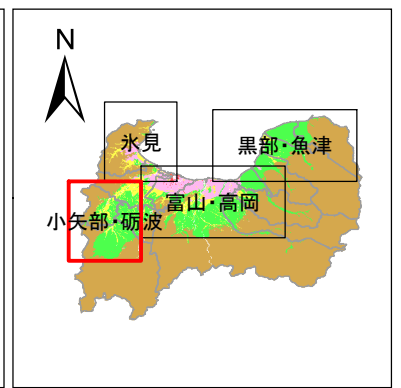
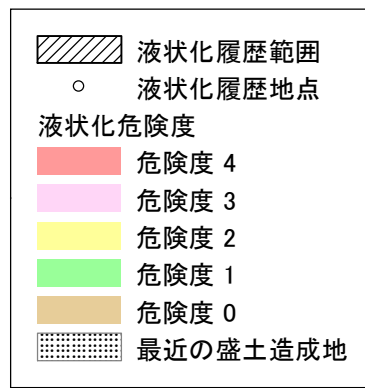


小矢部・砺波地域

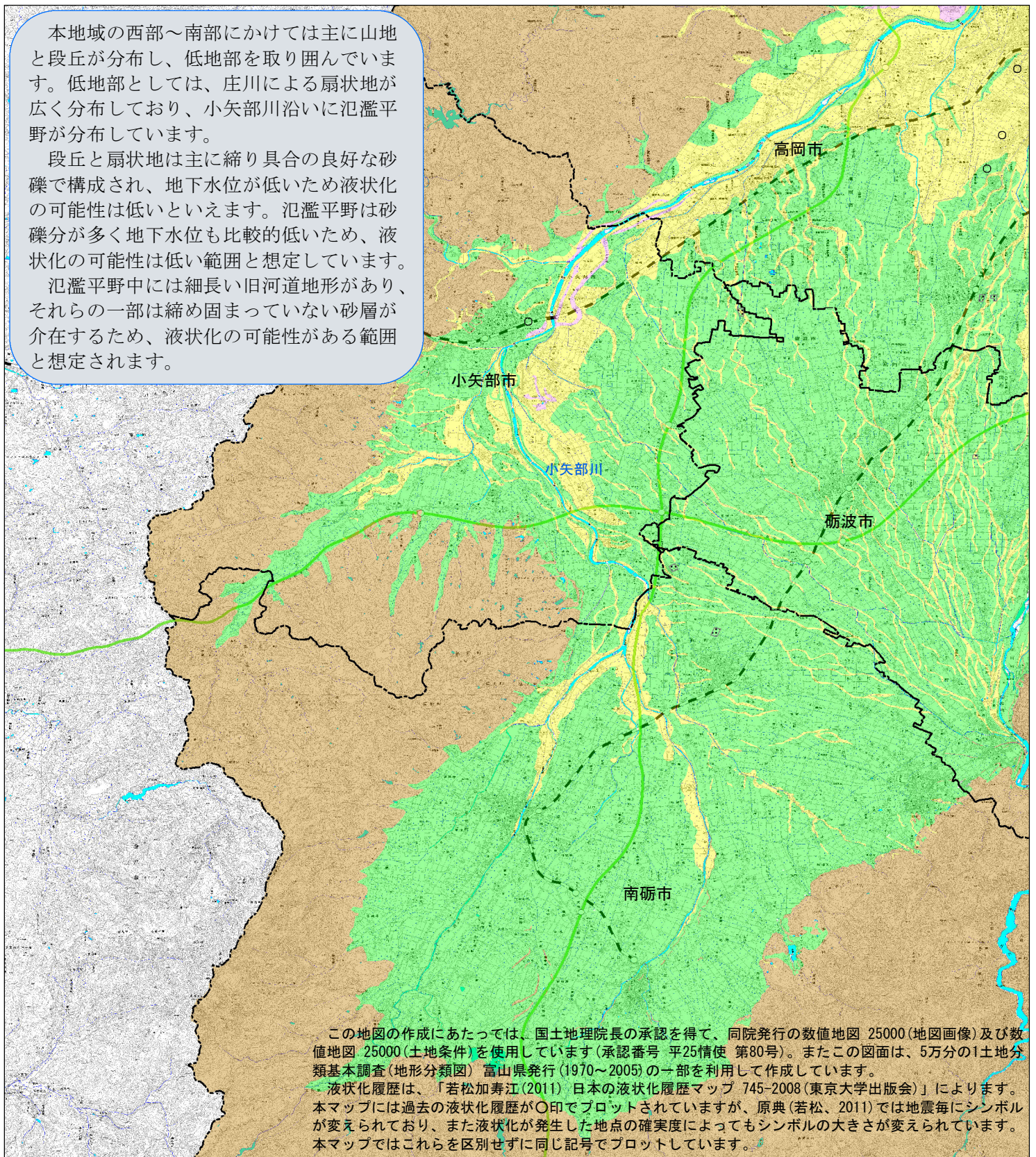
液状化しやすさマップ



本地域の西部～南部にかけては主に山地と段丘が分布し、低地部を取り囲んでいます。低地部としては、庄川による扇状地が広く分布しており、小矢部川沿いに氾濫平野が分布しています。

段丘と扇状地は主に締め具合の良好な砂礫で構成され、地下水位が低いため液状化の可能性は低いといえます。氾濫平野は砂礫分が多く地下水位も比較的低いため、液状化の可能性は低い範囲と想定しています。

氾濫平野中には細長い旧河道地形があり、それらの一部は締め固まっていない砂層が介在するため、液状化の可能性があると想定されます。



この地図の作成にあたっては、国土地理院長の承認を得て、同院発行の数値地図 25000 (地図画像) 及び数値地図 25000 (土地条件) を使用しています (承認番号 平25情使 第80号)。またこの図面は、5万分の1土地分類基本調査 (地形分類図) 富山県発行 (1970～2005) の一部を利用して作成しています。

液状化履歴は、「若松加寿江 (2011) 日本の液状化履歴マップ 745-2008 (東京大学出版会)」によります。本マップには過去の液状化履歴が○印でプロットされていますが、原典 (若松, 2011) では地震毎にシンボルが変更されており、また液状化が発生した地点の確実度によってもシンボルの大きさが変更されています。本マップではこれらを区別せずに同じ記号でプロットしています。